



# 学校だより

<https://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/yokohamafukayadai>

令和4年4月7日

4月号

横浜市立横浜深谷台小学校

校長 角井 治朗

## 新たな学校づくりに向けて

校長 角井 治朗

春のやわらかな風が校庭にそよぎ、温かい日差しが降り注ぐ中、いよいよ新年度が始まりました。桜に代わって咲き誇る色とりどりの花が、子どもたちの入学や進級を祝うかのようです。希望を胸に新年度を迎えられたお子様のご入学、ご進級おめでとうございます。

これから始まる新たな一年間を前に子どもたちの心は「わくわく」「どきどき」であふれていることでしょう。この大きな節目の時期は、子どもたち自身が前向きに自分自身のこれからを考える絶好の機会です。「こんなことをしてみたい。」「こんなことができるようになりたい。」等々、たくさんの希望を膨らませることがこれから始まる学校生活の大きなエネルギーになると思っています。ぜひご家庭でも、そんな子どもたちの思いをたくさん引き出してあげていただければと思います。そして、忘れてはいけないのは、その思い、希望に近づくために何をするかを同時に確かめていくプロセスです。学校においても、この思いを実現するための具体的な一歩を考えることを大切にしながら、この大切な時期を過ごしていきたいと思えます。

さて、2年生以上の保護者の皆様にはすでにお伝えしておりますが、令和4年度は、新たな中期学校経営方針3か年計画を策定し、スタートする年を迎えました。これに伴い、昨年度末より、校内においても、今の子どもたちの姿をしっかりと見とりながら、これからの教育活動の中で大切にしていきたいことについて話し合ったり、日々の授業の中でいかに「質の高い学び」を実現していくかについても検討したりしてきました。その結果から、子どもたちに育てたい資質・能力として、「主体性」や「粘り強さ」といったキーワードがクローズアップされてきました。今後、様々な教育活動を通して、こうした資質・能力の育成を意識して取り組んでいきたいと考えています。また、今年度より学校運営についても大きく2つの変更があります。まずは日課の見直しです。各学年、一定の余剰時数を確保しつつ日課表を変更し、週3日、15分下校時刻を早めることで、職員の授業の準備や授業改善のための研修の時間を捻出し、授業の質の向上を図ります。もう一つは、一部教科分担制の導入です。これは専科の授業を増やしたり、学年内で教科を分担して授業を行ったりする取組です。一人の職員が担当する教科を絞ることで授業の質の向上を図ると同時に、複数の目で子どもたちを指導していくことができるというメリットがあります。

新たな学校づくりに向けて一歩を踏み出す横浜深谷台小学校ですが、全ての教育活動を通して目指す学校教育目標「地域を愛し 地域を創る」に変更はありません。地域の中で、豊かなかわりをもちながら大切に育まれていくやさしい子どもの姿、そして、培った力で新しいことを考え、行動していこうとするたくましい子どもの姿を目指し、これからも「つながり」を大切にしていこうとする姿勢にも変わりはありません。子どもたちが豊かにかかわり合いながら、楽しく充実した学校生活を送るための「子ども同士のつながり」、子どもたちを温かく見守り、共に育ていけるような「保護者や地域の皆様とのつながり」、また、そのような学校づくりに向けて一致団結して取り組んでいく「教職員のつながり」など、子どもたちを取り巻く環境には様々なつながりがあります。そして、それらのつながりが、広く、深くになっていったとき、子どもたちの姿は、きっと目標に近づくことができるのではないかと考えています。

令和4年度は、新一年生54名を迎え、全校児童333名での新たなスタートとなります。目標の実現に向かって、学校、家庭、地域がしっかりと連携し、子どもたちの成長につなげるための拠点になるような学校づくりを目指して、全力で取り組んでいきます。どうか保護者、地域の皆様のご支援、ご協力をお願い申し上げます。